

## 平成二十七年 厚真町戦没者追悼式 式辞

本日ここに、戦没者の御遺族並びにご来賓の皆様のご参列をいただき、厚真町戦没者追悼式を執り行うにあたり、戦禍の犠牲となられました御霊（みたま）に対し、厚真町民を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、ご遺族の皆様にご心から哀悼の意を表します。

先の大戦が終わりを告げてから、七十年もの長い歳月が過ぎ去りました。

祖国の平和と発展を願い、また家族の安泰を念じ、苛烈を極めた戦場に倒れた方々、あるいは戦後、異郷の地に残され、飢えや病に倒れ、祖国に帰ることがかなわなかった方々に思いをはせるとき、尽きることのない悲しみが胸にこみあげてまいります。

最愛のご家族を失われ筆舌に尽くしがたい悲しみに耐えられ、立派にご子弟を養育されながら地域社会の安定、発展に貢献されてこられましたご遺族の皆様のご努力に対して、ここに深甚なる敬意を表します。

改めて戦後、日本の平和と繁栄は戦没者の方々の尊い犠牲の上に築かれていることを私たちは正しく認識し、その使命と次世代に対する重い責任を自覚する必要があります。

世界に目を向けますと、各地で武力による争いが繰り返され多くの尊い命が失われており、世界平和への道のりは、いまだに遠いことを痛感せざるを得ません。

戦争という武力行使は、紛争対立を解決できないという歴史の教訓から戦争を放棄した我が国ではありますが、戦後に生まれた世代が大半を占める今、悲惨な戦争体験や核被爆体験の風化が危惧されています。

折しも国会において安全保障法制が議論されており、先日は、安倍首相による戦後七十年談話が世界に向けて発表されたところでありますが私たち国民も歴史に謙虚に向きあい、戦没者の方々がかけがえのない命を持って示された戦争の悲惨さと、核の功罪を明らかにし、決して人類の未来が閉ざされることの無いよう、平和の尊さ、平和を堅持する智慧を次の世代にしっかりと継承していかなければなりません。二度とあの悲惨な歴史を繰り返すことの無いよう、我が国の恒久平和への誓いを新たにいたしますとともに、本町の限りない発展のため、町民の皆様とより一層努力を重ねてまいりますことを、お誓い申し上げます。

終わりに、戦没者の御霊（みたま）の安らかならんことを、そして、ご遺族の皆様のご多幸をお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成二十七年八月二十八日

厚真町長 宮坂尚市朗